すずの郷新聞

第100号

すずの郷新聞は
100号を迎えました
今後とも
すずの郷新聞を
宜しくお願い
致します。

新年あけまして
おめでとうございます。

2020年　オリンピックイヤー
を迎えました。
今月のすずの郷新聞は、
新年恒例の
年男年女さんへのインタビュー
ねずみ年の
入居者さん、スタッフに
『今年行きたいところ
今年やりたいこと』
を聞きました!!

海田繁子さん（鹿子）

行きたいところか～。近くでよ～お花見に行ったり、あっさりしたものとか食べに行ったりして、のんびり過ごせたらええな～。あとは、誰かと一緒に世界一周旅行に行きたいなぁ。

岩堀義夫さん（西館）

海に行きたい！
山を登りたい！
そして!!
フランスの街を
見に行きたい♪

浅井みねさん（鹿子）

下呂温泉に行って皆とワイワイ言いながら、風呂上がりのビールを飲みたいな♪
あとは毎日茶碗蒸しが食べたいです。

武田君子さん（西館）

孫の結婚式に出席したい!!それまで元気に頑張ります!!

丹良隆さん（西館）

大好きな娘と一緒に
映画を観たり
ご飯を食べたい。娘と
一緒に行けるなら
どこでもいいよ♪

水上くに ゑさん（七宝）

大きなエビ
フライを
口いっぱいに
食べたいな。

松岡智帆（看護）

親子三代で
海外旅行に行きたい。

鈴木芳仁（施設長）

何事にもチャレンジ!!
フルマラソンにチャレンジしたい。

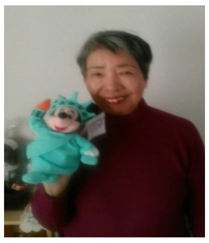
中禮ミチエさん（西館）

おいしいものをいっぱい食べたいな♪

田中恵美（調理）

季節を感じるところ。近くの桜を見に行ったり、香嵐渓に紅葉を見に行きたいです。

松井萬里子（調理）



鉄道と一人旅が好きです。青春18きっぷで電車に乗ってゆっくり時間をかけて九州まで行きたい。

角田真衣（相談員）

お料理は苦手ですが、野球とスイミングに打ち込む息子たちのために食でサポートできるよう頑張ります。

木村優花（鹿子・市松）

今年は社会人２年目になります。
入居者さんの毎日を大切にし、もっとお年寄りのことを知り、笑顔でいっぱいになっていただけるよう頑張ります。

山本直美（井桁・麻葉）

母親を旅行に連れて行く。

徳山幸吉（井桁・麻葉）

ゆっくりした時間を過ごす。
北海道に行きたい。

佐久間恵美（矢絣・千鳥）

福島県の大内宿か、しまなみ海道か、出雲大社に行きます。
旅先で原付に乗った出川哲朗に会うのが夢です。

林裕子（清掃）

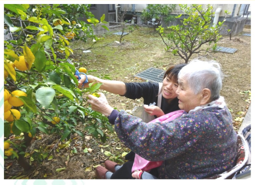
美味しいものを食べに
四国か九州に旅行に
行きたい。

施設長のひとこと

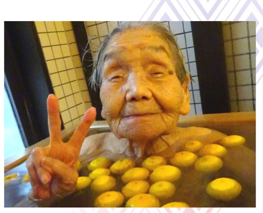
明けましておめでとうございます。旧年中のご厚情に感謝申し上げますとともに、本年も変わらぬご支援を何卒、お願い申し上げます。

すずの郷新聞は第100号を迎えました。手書きの第1号から8年と４か月「毎月楽しみにしてますよ」のお声をいただき、とても嬉しく、作成者一同、大きな励みになっております。ありがとうございます。今後とも、すずの郷新聞を宜しく願いします。

今月のベストショット



ふと中庭を見ると、ゆずがいっぱい!!畑仕事が大好きな浅井みねさん、植物を育てるのが好きな南谷秋枝さんに伝えると、寒さも忘れて皆で、一生懸命ゆずの収穫をしました。採ったゆずでゆず風呂に入り、いい香りに包まれ幸せな気分になりました。



忘年会

年末は、恒例のユニット忘年会を行いました。
今年も沢山のご家族様にご参加いただきましてありがとうございました。
各ユニットの忘年会のご紹介です。

井桁・麻葉

バイキング方式で皆さんにお食事を楽しんでいただきました。景品ありのクイズ大会が盛り上がりました。

矢絣・千鳥

懐かしのドリフの早口言葉とビンゴ大会を行いました。早口言葉が老若男女、みんなで楽しめました。

鹿子・市松

毎年恒例のまぐろの解体ショーを行いました。毎回大好評で、皆さんに喜んでいただいています。

七宝・亀甲

ご家族から入居者さんへの手紙、ジェスチャーゲーム、スタッフによる、よさこいなど盛りだくさんな忘年会でした。

西館

だるま落としや、ティッシュ箱積み、ボールつかみなど、色々なゲームをしました。景品があり盛り上がりました。

武光観光だより

～とろろめし萬葉～

一年を締めくくるにふさわしいグルメツアー❤このグルメ企画、ＴＶや雑誌などメディアで紹介されているスポットに照準を当てたため、何と!!お席の予約不可!!空席待ち覚悟となることを参加者の皆さまにお話しし、いざ出発!!すると…車中より太くて大きな虹を見ることができ、その巨大な虹に全員が「きっといいことがあるね～」とワクワクしました。

まずは『しいたけブラザーズ』で、しいたけ狩りを楽しみ、次に『とろろめし萬葉』へ。併設のギャラリーと共に、新潟から移築されたという古民家で、お庭の滝や池を眺めながらカマドで炊く麦ごはんと、なめらかな自然薯をいただきました。お代わり自由なのが魅力❤地場産の自然薯の粘りと風味が口の中で広がる感じに皆さん大満足。もうお腹はとろろでてんこ盛り。でも…やはりスイーツは別腹なのか?!次に行った恵那川上屋では『栗ぜんざい』やインスタ映えする巨大モンブラン『栗一筋』などそれぞれ自分好みの栗スイーツを堪能してみえました。

実は、今回の旅行には、親子で参加された後藤冨子さんの娘さんにとって、偶然にもビックリする出来事がありました。萬葉に併設されたギャラリーは、何と娘さんのご友人が営んでみえ、何年かぶりに出逢うというキセキがあったんです!!
まさにこれは虹のおかげ?!

心もお腹もいっぱい❤思い出に残る旅行となりました。

（鈴木夏由子）

鵜居照子さん

書道教室の先生として
活躍される
元入居者さん

↑書道教室で入居者さんに書道を教えて下さる鵜居さん（写真左）

すずの郷では、月に一回、書道教室を行っています。書道の先生は、書道の得意なスタッフと、以前すずの郷に入居しておられた鵜居照子さんです。

鵜居さんは、すずの郷開設当時、入居者さんでしたが、その後お元気になられ退居。現在は、ご自宅に住まわれています。鵜居さんは、書道を得意とされておられ、すずの郷を退居されてからも、その特技を生かしていただきたいことと、すずの郷に入居されていたご縁を大切にしたいと思い、現在も書道教室の先生として活躍されています。

今回は、鵜居さんご本人から、すずの郷書道教室への想いを寄稿していただきましたのでご紹介致します。

～鈴生りのみかんに寄せて　　鵜居照子～

バス停への道すがら、なんともいえぬ心持良き香りに、急いで脳まで届け!!と深呼吸。

回想すれば、小三転校したばかりの掃除で、尺骨骨折して以来、親指不自由で。生枝副えて貰い。リハビリ等一切無かった時代であった。でもこうして今日行くところがあり。

八十半ば近くまで、すずの郷へ。利用者様たちと、お互い積み重ねてきた人生をおしゃべりし乍ら。筆やペンを持って、月一回の教室に、喜んでお手伝いさせて貰えているのです。全く「ケガの功名」である。

実際七十始。要介護の身であって、流れに任せ乍らも、紙一枚一枚、一歩ずつ。

童謡好き、活字好きが1%残存していたこと。好運にも病は、大事に至らなかった。

すずの郷開設関係者の『お年寄りを大切に、自由に!!』の方針のもとに、元気溌剌スタッフの方達の力添えも戴けた。感謝の念が溢れて来ます。ぜひ教室のぞいて下さい。お待ちしていますから。

↑　毎月の書道教室の様子